

## …はなの村の四季…

## 初夏の山野に咲くヤマボウシ(山法師)

小 関 栄

ヤマボウシは、この界隈の山野には以前は自生していたらしいが、学園花のむらの光陽の里や倉馬の里では見かけたことはなかった。五月中旬に光陽の里より2キロほど南東にある「たまり一な公園」で偶々ヤマボウシの花を見つけた。見ると、これは本来の山野に自生したヤマボウシではなく、外来のアメリカハナミズキで公園が10年ほど前に造られた時に植えられたものらしい。

それから一週間後、倉馬の里より3キロほど北西の上垂木のねむの木むらの山奥で、自生のヤマボウシを見つけた。このあたりは以前から谷田(やだ…谷合の田圃)の奥の山地だったので、自生のヤマボウシがそのまま残されて鬱蒼とした林の中で大木になって花を咲かせていた。公園や家の庭先でよく見かけるヤマボウシ(アメリカハナミズキ)とは異なって、葉は濃緑で花もひと際大きく自然の中で健気に生育していた。(上の写真はその木で5/26撮影したもの)

ヤマボウシの花は葉の先に咲く。四片の清楚な白い苞は実は葉、これが花弁のように開き、その中心に小さな花を付ける。これが恰も法師の坊主頭と頭巾に擬して「山法師(ヤマボウシ)」と名前が付けられたそうだが、遠くから見ると四弁の苞葉までも花に見えて白い綿帽子をかぶったようだから、「山帽子」もこの名前の由来だろう。辞典の広辞苑でも山法師、山帽子と両方の漢字が載っている。

また、ハナミズキは別名「ヤマクワ」ともいうが、秋に赤く熟して桑の実そっくりだから。中国にも、長江流域に多いヤマボウシは名前を「四照花」といって、日本のとは変種のヒマラヤヤマボウシ。英語名はChinese dogwood(中国水木)、アメリカハナミズキと同じくミズキ科の植物。日本古来のヤマボウシもミズキ科でミズキ、アオキ、ハナイカダなどと同類だ。

(24.5.27.記)

活けてよし 遠き景よし ヤマボウシ 淡水

上掲のヤマボウシの花を上から拡大して見た写真  
大して写したもの



同じヤマボウシの花を横から拡大して写したもの

